



징

銅鑼

歴史と特色

銅鑼は古代ジャワ、スマトラの南方民族の打楽器にはじまり、中国、朝鮮を経て渡来したものとされている。日本では出船の合図や茶の湯で使われてきたもので、金沢では、茶道の普及に伴って製作されるようになった。

この銅鑼作りには打ち込んだのは人間国宝の故魚住為楽氏で、仏具の中の砂張の鈴の鑄造研究からヒントを得て銅鑼の製作を始め、その抜群の音響は高い評価をうけていた。

材料の砂張は、金属鑄物の中でもっとも難しいといわれている銅と錫の合金で、100対26が音響を良くする絶対条件である。現在この技法は孫にあたる兄弟によって継承されている。

역사와 특색

징은 중국, 조선을 거쳐 도래한 것으로, 배가 항구를 떠날 때 보내는 신호표시와 다도에서 사용돼 왔다. 우오즈미이라쿠 씨가 불구의 방울에서 힌트를 얻어 제작을 시작했다. 재료는 구리와 주석의 합금이고, 100 대 26 이 멋진 음향을 내는 절대조건이며, 징의 제조는 금속주물 가운데 가장 어려운 기술로 일컬어지고 있다.

▶ 情報 정보

主な生産地(주요 생산지)	金沢市(가나자와시)
主な製品名(주요 제품명)	銅鑼・茶道具、鈴、花生(징, 차도구, 방울, 꽃꽂이)
主な生産者(주요 생산자)	魚住安彦(우오즈미 야스히코)、魚住安信(우오즈미 야스노부) 〒920-0865 金沢市長町1-7-14(가나자와시 나가마치 1-7-14) TEL (076) 221-7390



나나오초

歴史と特色

ろうそくは仏教の普及とともに、仏壇に使う灯りとして広まったものと言われている。当初は舶来の貴重品であったが、江戸時代に原料の油をとるハゼの木の栽培が奨励され、提灯の普及に伴って国産の安価なるうそくが日本各地で作られるようになった。

七尾は天然の良港として昔から栄え、北前船により九州、東北各地にまでろうそくが販売されていた。

明治30年代に西洋ろうそくが入ってきてからは、価格面で格差が大きく、電灯の普及等で次第に作られなくなり、現在は仏事や祭礼用として1社が製造している。蘭草の髓と和紙で作った芯に、植物性油から採った白ろうを手で塗り重ね、太くしていく伝統の手作り技法を伝えている。

역사와 특색

초는 불교의 보급과 더불어 불단에 사용하는 등불로 퍼져 나갔다. 에도시대에는 제등에 사용되면서 거망웃나무 재배가 장려됐다. 나나오는 기타마에부네의 기항지이었기 때문에, 나나오촛불은 규슈와 도호쿠지방에서도 판매됐다. 현재는 한 회사만이 난초의 고갱이, 전통일본종이 와시와 식물성 납을 사용하는 전통 손작업 기법을 전하고 있다.

▶ 情報 정보

主な生産地(주요 생산지)	七尾市(나나오시)	主な製品名(주요 제품명)	和ろうそく(일본전통 초)
主な生産者(주요 생산자)	高澤ろうそく(다카자와 초) 〒926-0806 七尾市一本杉町11(나나오시 잇폰스기마치 11) TEL (0767) 53-0406		

七尾和ろうそく